

## プラスチックごみが川から海へ

### ～世界中の海に漂うマイクロプラスチック

マイクロプラスチックとは、最近世界的に問題視されている海洋ごみの中でも、とりわけ悪影響が大きい、生分解性がない5ミリ以下の微細なプラスチックの破片のこと。



\*プラスチックごみが海を漂流しているうちに、紫外線などにより細かく砕けたもの

\*化学繊維が洗濯時に剥落し、下水処理場をすり抜けて環境中に流出したもの

\*もとからマイクロサイズで製造されたもの・・・洗顔料や歯みがき粉などのスクラブ材に利用されるマイクロビーズが下水処理場から流出

・・・それらが海洋生物に与えている悪影響は大きい。

(1) 動物プランクトンが、植物プランクトンと間違えて、食べてしまう。

(2) この動物プランクトンを魚が食べ、その魚をさらにサメやクジラのような大型の生き物が食べる。

(3) 栄養のないマイクロプラスチックを食べて満腹になれば、発育不足になって生態系のバランスがくずれる。

・・・実際に、魚や貝、水鳥などの体内からプラスチックや、そこから溶け出したとみられる有害物質がみついている。

環境省の2010年から2014年の日本周辺の海域調査では、世界の海の、

27倍のマイクロプラスチック（個数）が存在した。日本周辺海域はマイクロプラスチックのホットスポットと言える。（環境省）



**日本の一人当たりの使い捨てプラスチックの発生量は世界2位！年32キロ**

「国連環境計画」が6月に発表

1位のアメリカ（一人当たり年45キロ）に次ぐ



- \* エコな買い物・・・お店に容器・包装などの過剰サービスを求めず、シンプル化を促そう。「ごみになるので、要りません」と。
- \* ラップなどの新品プラスチックをできるだけ使わない工夫を！
- \* エコバッグ持参で、レジ袋やポリ袋類をもらわない。
- \* ポイ捨てしない！ 子供や若者に伝えよう。



## 背景

- ◆ 廃プラスチック有効利用率の低さ、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題
- ◆ 我が国は国内で適正処理・3Rを率先し、国際貢献も実施。一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄量、アジア各国での輸入規制等の課題

## 重点戦略

### 基本原則：「3R + Renewable」

### 【マイルストーン】

リデュース等	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ワンウェイプラスチックの使用削減(レジ袋有料化義務化等の「価値づけ」)</li> <li>▶ 石油由来プラスチック代替品開発・利用の促進</li> </ul>	<p>＜リデュース＞</p> <p>① <b>2030年</b>までにワンウェイプラスチックを累積<b>25%</b>排出抑制</p> <p>＜リユース・リサイクル＞</p> <p>② <b>2025年</b>までにリユース・リサイクル可能なデザインに</p> <p>③ <b>2030年</b>までに容器包装の<b>6割</b>をリユース・リサイクル</p> <p>④ <b>2035年</b>までに使用済プラスチックを<b>100%</b>リユース・リサイクル等により、有効利用</p> <p>＜再生利用・バイオマスプラスチック＞</p> <p>⑤ <b>2030年</b>までに再生利用を<b>倍増</b></p> <p>⑥ <b>2030年</b>までにバイオマスプラスチックを<b>約200万トン</b>導入</p>
リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プラスチック資源の分かりやすく効果的な分別回収・リサイクル</li> <li>▶ 漁具等の陸域回収徹底</li> <li>▶ 連携協働と全体最適化による費用最小化・資源有効利用率の最大化</li> <li>▶ アジア禁輸措置を受けた国内資源循環体制の構築</li> <li>▶ イノベーション促進型の公正・最適なリサイクルシステム</li> </ul>	
再生材 バイオプラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 利用ポテンシャル向上（技術革新・インフラ整備支援）</li> <li>▶ 需要喚起策（政府率先調達（グリーン購入）、利用インセンティブ措置等）</li> <li>▶ 循環利用のための化学物質含有情報の取扱い</li> <li>▶ 可燃ごみ指定袋などへのバイオマスプラスチック使用</li> <li>▶ バイオプラ導入ロードマップ・静脈システム管理との一体導入</li> </ul>	
海洋プラス チック対策	<p>プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないこと（海洋プラスチックゼロエミッション）を目指した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ポイ捨て・不法投棄撲滅・適正処理</li> <li>▶ 海岸漂着物等の回収処理</li> <li>▶ 海洋ごみ実態把握(モニタリング手法の高度化)</li> <li>▶ マイクロプラスチック流出抑制対策(2020年までにスクラブ製品のマイクロビーズ削減徹底等)</li> <li>▶ 代替イノベーションの推進</li> </ul>	
国際展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 途上国における実効性のある対策支援（我が国のソフト・ハードインフラ、技術等をオーダーメイドパッケージ輸出で国際協力・ビジネス展開）</li> <li>▶ 地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築（海洋プラスチック分布、生態影響等の研究、モニタリング手法の標準化等）</li> </ul>	
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 社会システム確立（ソフト・ハードのリサイクルインフラ整備・サプライチェーン構築）</li> <li>▶ 技術開発（再生可能資源によるプラ代替、革新的リサイクル技術、消費者のライフスタイルのイノベーション）</li> <li>▶ 調査研究（マイクロプラスチックの使用実態、影響、流出状況、流出抑制対策）</li> <li>▶ 連携協働（各主体が一つの旗印の下取組を進める「プラスチック・スマート」の展開）</li> <li>▶ 資源循環関連産業の振興</li> <li>▶ 情報基盤（ESG投資、エシカル消費）</li> <li>▶ 海外展開基盤</li> </ul>	

- ◆ **アジア太平洋地域をはじめ世界全体の資源・環境問題の解決のみならず、経済成長や雇用創出 ⇒ 持続可能な発展に貢献**
- ◆ **国民各界各層との連携協働**を通じて、マイルストーンの達成を目指すことで、**必要な投資やイノベーション（技術・消費者のライフスタイル）を促進**

(1) 「プラスチック資源循環戦略」2019年5月31日策定 環境省 HP

( <https://www.env.go.jp/press/files/jp/111747.pdf> )

(2) プラスチック資源循環戦略小委員会第5回（2019年2月22日）の資料「プラスチックを取り巻く国内外の状況」 環境省 HP

( <https://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-05/y031205-s1r1.pdf> )

(3) 環境省 プラスチック・スマートキャンペーン

<http://plastics-smart.env.go.jp/>

① 「取り組み事例」募集 登録

<http://plastics-smart.env.go.jp/about/seeking>

② プラスチック・スマート・フォーラム

<http://plastics-smart.env.go.jp/about/forum/>

参加団体一覧

《参考1》埼玉県 川の国応援団

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0505/kurashi/kankyo/shizen/mizukankyo/saise/oendan/index.html>

《参考2 NPO》

各地の川や海岸のごみを拾い、種類別にカウントして記録に残している。

(1) JEAN

<http://www.jean.jp/>

(2) 荒川クリーンエイド

<https://www.cleanaid.jp/>